



都市の農地活用×子育て支援で実現する「生きる力」を育む地域づくり

① 私たちの実現したい未来

土に根差し、共に育つ たくましい地域を次世代へ

都心から車で20分、中央高速道路国立府中インター直下の谷保地域に広がる田んぼと青い空。開放的で豊かな空間は、子どもたちにとってはもちろんのこと、人が生きる上で大切な地域資源です。

身近な自然環境としての農地が存在することは、子どもたちの心身を成長させ、自尊心を育みます。四季を感じられる田園風景が訪れる人々の心を癒し、災害時の避難場所など、いざというときには安全の支えとなります。

② 私たちの使命

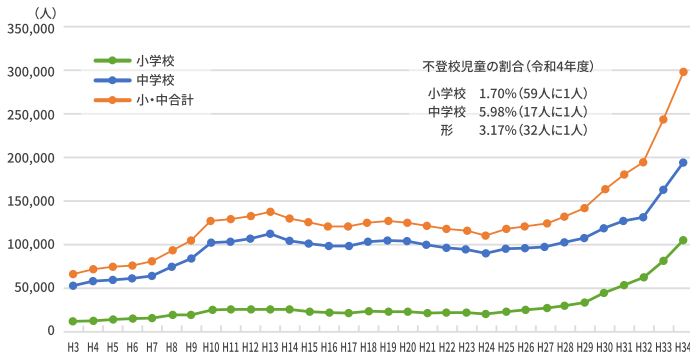
耕そう!遊ぼう!つかみ獲ろう!東京の田畑で育つ生きる力

私たちの農園には、毎年7,000名を超える方々が訪れます。農園だけではなく古民家や団地の認定こども園、ゲストハウスなど5つの拠点を運営し、0歳から年配者まで多彩な人々が地域で安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいます。大人も子どもも思い切り遊び、時にはぶつかり合いながらも、日々共に成長しています。

しかし、住宅開発により農地は減り、農業者の高齢化、相続による農地の処分など一人では到底変革しえない大きな課題を抱えています。特に国立市の水田はこの30年で85%も減少しており、今も減り続けています。東京に残された希少な田園環境を活かし、子どもたちの成長を支援すると同時に、土や自然が豊かに残る地域を未来につないでゆきます。

③ 活動する理由(社会背景)

1. 2023年度の不登校者数(小中学校)は約30万人



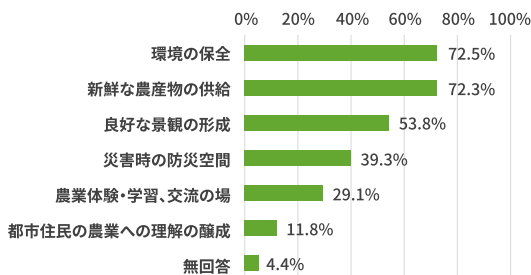
出典:令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 2023年10月4日

文部科学省の調査によると、2023年度10月時点での小中学校における不登校者数は29万9048人、前年度比で22.1%増加しています。

その一方で、フリースクールや子どもの居場所の整備は民間やボランティアに頼っている実態がありまだ十分とは言えません。

3. 国立市民の殆どが農地保全を希望、農業・農地に多くの期待

農業・農地への期待



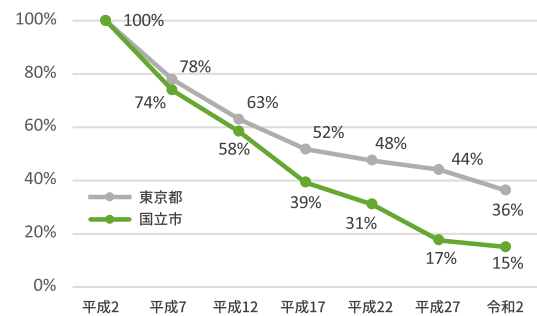
出典:国立市第3次農業振興計画(平成29年) P74

95.3%もの市民が農業保全を希望、とくに「今ある農地は出来るだけ多く残してほしい」が全体のほぼ半数を占めています。

また、市民の約3/4がその農業・農地に対して「環境の保全」と「新鮮な農作物の供給」を挙げ、いかに現状の自然環境が価値あるものか、また都下では貴重かつ宝ともえる米・野菜の地場農作物の生産地としての価値は大きいといえます。

2. 激減する国立市の田んぼ 都市農地の現状

田の面積の推移(残存率 / 基準:平成2年)



典:東京都農林水産統計データ令和3年 P2 統計くにたち 2021 P105

グラフの通り、田んぼの面積は1990年から2020年の30年間において東京都で64%、国立市で85%減少しています。

4. 日本の若者、“将来がたのしみ”ではない?

自分の将来や目標について

(単位:%)	将来の夢を持っている	自分の将来が楽しみである	社会が今後どのように変化するか楽しみである	多少のリスクが伴っても、新しいことに沢山挑戦したい	多少のリスクが伴っても、高い目標を達成したい	リスクのある挑戦よりも、経済的安定を重視する	リスクのある挑戦よりも、心理的安定を重視する
日本	59.6 6位	57.8 6位	54.0 6位	49.0 6位	44.9 6位	70.4 6位	68.3 6位
アメリカ	82.1	79.0	75.6	77.0	79.2	76.5	74.5
イギリス	78.3	75.7	71.1	78.1	81.4	72.6	71.7
中国	84.7	86.9	85.6	79.8	78.8	78.7 1位	78.1 1位
韓国	81.5	77.6	72.3	68.6	67.2	66.6	76.7
インド	93.3 1位	90.6 1位	88.5	84.4 1位	87.6 1位	74.2	75.9

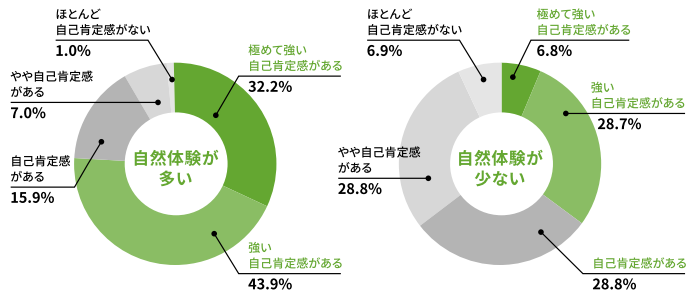
出典:18歳意識調査「第46回 -国や社会に対する意識(6カ国調査)-」報告書 日本財団 2022年3月24日

2022年に日本財団が6か国の若者(17~19歳)を対象に行った調査では、自身の将来や目標についての質問で、日本が軒並みワースト1位という結果。多くの若者が、将来に不安を抱え、幸福感を得ることが難しい日々を過ごしているといえます。

自身の将来や目標に関する質問で、全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。特に「多少のリスクが伴っても、新しいことに沢山挑戦したい」「多少のリスクが伴っても、高い目標を達成したい」は低く、5割を下回ります。

5. 子どもの頃の体験活動が、物事にチャレンジし、困難を乗り越える力を育む

自然体験と肯定感の関係(*小学生の場合)



文部科学省のアンケートでは、自然体験が多い子どもの方が、自然体験が少ない子どもよりも自己肯定感が高くなるという結果が示されています。

くにたちはたけんぼの自然体験!、農的な暮らし・動物とのふれあい、人とのつながりの中で、心と身体の育ちに大切な要素がたくさん含まれています。

出典:文部科学省 令和2年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」青少年の体験活動の推進に関する調査研究
https://www.mext.go.jp/content/20210908-mxt_chisui01-100003338_1.pdf

④ 私たちの活動

耕そう!遊ぼう!つかみ穫ろう!東京の田畑で育つ生きる力

<https://k-nouennokai.org/introduction/>



農園事業 「育てる」から「作る」「食べる」までを一貫体験 農体験プログラム



稲作・畑体験

親子を対象とした田植え・稲刈り・収穫祭の3回の体験、大人を対象とした年間9回の「大人のたんぼ倶楽部」、小麦、夏野菜などの作付けから「いただきます」までの畑体験。餅つきやしめ縄づくりなどの稲作文化体験も。

小麦、染め物、綿紡ぎなど

綿と藍を育てて染め物、わた紡ぎ、機織りを体験する「クラフト体験」。家庭でのプチ蚕養体験を通したコミュニティ活動や、会員同士でオン&オフラインイベントを楽しむ「お蚕フェンスプロジェクト」。



コミュニティ農園くにたちはたけんぼ

毎年7000名以上が訪れ、「くにたち農園の会」の代名詞といえる農園。烏骨鶏と馬を飼育。用水には蛙や魚が生息し、農園・子育て両事業の重要拠点として活用。

レンタルスペース畑の家

昭和を思わせる平屋一棟貸しのレンタルスペース。講習会やセミナー等の場として利用可能。草木染や季節野菜の調理等を行う「手しごと倶楽部」も定期開催。

コミュニティ菜園みんな畑

レンタルスペース「畑の家」に隣接したコミュニティ菜園。農具や自家製堆肥の利用も可能なマイ区画に加えて、年間を通じて共に作業する野菜づくりプログラムも。

ゲストハウスここたまや

昭和の趣あるアパートを改修したゲストハウス。学生団体「たまこまち」と協働し、国内・海外からの旅行者を対象に田畑とつながる宿泊・食農観光体験を提供。

子育て事業



認定子ども園 くにたち富士見台団地風の子

昭和42年設立以来50年以上続いた自治会幼児教室の保育を引き継ぎ開園。緑豊かな環境の中で保育者・保護者に見守られ35人の子どもたちが兄弟のように育っています。

国立市地域子育て支援拠点事業 つちのこひろば

気軽に立ち寄れる親子の居場所とし、「あそぶ・まなぶ・つながる」場を提供。わらべうたや音楽遊びの他、近隣公園での出張ひろばにて外遊びも実施。

森のようちえん谷保のそらっこ

子どもが育つ3つの間、「時間・空間・仲間」。一人ひとりの「間」を大切に、「楽しい」を生み出す力を育む自然遊びひろば。

放課後クラブ ニコニコ

畑・生き物・アートをテーマに活動。自然の中でさまざまな個性を持つ友だちとのびのび過ごすことで、自発的に遊びや学びを想像する力を身につけることを目的とした野外放課後クラブ。



フリースペースはたけんぼ

「安心できるつながりを、自分のペースで」家庭・学校以外に安心して過ごせる「第3の居場所」として平日の午前中、畑で活動。



旅するがっこう

国立から飛び出して、遠くへ行く企画が満載。北海道で思いっきり森、雪遊び、動物との暮らし、東京近郊の海や山、川下りで力を合わせたり、島の海を満喫したり!身近な自然から大きな自然へ、多様な体験を仲間と一緒に楽しみます。

5 国立市・谷保地域について

豊かな水源に恵まれて、縄文時代から人々が集まり、農業を営んできた谷保村（現在の国立市谷保地域）。

多々の湧水や多摩川から引き入れた水からなる府中用水や田んぼは、貴重な野生生物の棲家となり、そこに集まる野鳥などの生態系の基盤となっています。

また、稲作を中心とした農家の人々の営みが生態系を支え、そこには自然と人々を支えあう暮らしが息づいてきました。

昭和初期以降は、一橋大学、国立音楽大学などが創立。1952年には国立市の前身である国立町が文教地区に制定され、自然と学園都市とが融合した独自の発展を遂げています。



国立市 年表

古墳時代	下谷保第一号墳 四家在家遺跡
平安時代	谷保天満宮建立(903年)
鎌倉時代	城山、都史跡三田氏館跡(津田三郎為守)
江戸時代	[本田家]谷保に移住。(重要文化財[薬医門])
大正時代	箱根土地(株)による100万坪開発はじまる
1926(昭和元年)	国立駅開業
1927(昭和2年)	東京商科大学(現一橋大学)専科移転
1951(昭和26年)	谷保村が国立町になる(町制施行)
1967(昭和42年)	国立町が国立市になる(市制施行)
2003(平成15年)	ママ下湧水群、常盤の清水、矢川緑地が「東京の名湧水57選」に選ばれる
2006(平成18年)	府中用水が全国疎水百選に選ばれる

ハケと湧水・用水

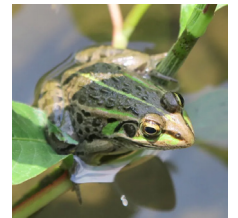
川市から国立市南部、さらに府中へ続くハケと呼ばれるグリーンベルト(崖線)の下にはたくさんの湧水が湧き出しています。都市化による用水の暗渠化が進む中、現在も水草が茂る手掘りの水路「府中用水」は、農林水産省の疎水百選に選ばれました。



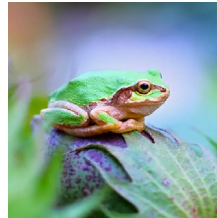
ママ下湧水



府中用水本流



トウキョウダルマガエル



ニホンアマガエル



ハグロトンボ



ホトケドジョウ

6 参加者の声

久倫也さん WAKUWORKS(株)代表

国立～谷保の風土に根ざしながら、地域内外の多様な世代の人々～虫や鳥、動物達との農的な活動、素晴らしいです。谷保に住み始める人、谷保に通う人が最近増えてきているように感じます。今年は僕も国立～谷保の農的な活動により参加したいと思っています。

石村みかさん リースペースはたけんぼ 参加者の保護者

娘の不登校がきっかけで「くにたち はたけんぼ」と出会い、様々な企画に参加してきました。経験豊富なスタッフさん達との交流、動物や学年を超えての交流が沢山あります。彼女は心を開き自信が持てるまでに成長してきました!学校へも徐々に行き始めています。

望月沙知さん 認定子ども園国立富士見台団地 風の子 保護者

園の名前の通り団地の中にあり、緑豊かな環境と地域住民の方に見守られていることを感じています。自主運営だった頃と変わらない愛情いっぱいの保育、家族ぐるみの関わりの中での子育て。今も園と団地自治会の関係を大切に、自治会活動にも参加しています。

西野耕太さん 西野農園代表


「くにたち はたけんぼ」は、東京でも貴重な田んぼがある国立市で、親子田んぼ体験などお米作りの大切さを伝えることができる素晴らしい場所です。今後も、頑張ってたくさんのお子もたちに伝えていって下さい!!

小島さん つちのこひろば利用者

「つちのこひろば」に行くと、必ずスタッフが迎えてくれ、帰る時には送り出してくれます。初めての子育てで心細い中、私達を待っている人が居るということにどれだけ助けられたか。季節の移ろいと共に子どもの成長を見つめた時間は、私の宝物です。

7 団体概要

概要

名称	特定非営利活動法人 くにたち農園の会
本部事務局	〒186-0011 東京都国立市谷保5119(やぼろじ内) (アクセス)
設立年度	特定非営利活動法人内閣府認証取得 2016年12月2日
役員 事務局	理事長:小野淳 副理事長:佐藤有里 副理事長:武藤芳暉 理事:村井里子 理事:荒木友梨 理事:小野宏子 理事:松尾裕子 理事:高瀬健男 監事:是川夕 事務局長:武藤芳暉
事業	(1)都市農地を活用できる団体への畑区画貸し出し (2)畑作・稲作体験 (3)乳幼児、児童の野外体験活動 (4)動物とのふれあい、飼育体験 (5)農地を活かしたイベント活動のサポート (6)農のある風景・環境の保全 (7)地元農産物の普及提供 (8)都市農業振興にかかわる普及啓発活動 (9)災害時の防災拠点として機能できる施設整備 (10)都市農地を活用した事例の情報発信 (11)子育て支援事業 (12)認定こども園設置法による認定こども園の事業 (13)その他目的を達成するために必要な事業
事業所	コミュニティ農園「くにたち はたけんぼ」 田畑とつながる子育て古民家「つちのこや」 ゲストハウス「ここたまや」 畑つきシェアスペース「畑の家」 認定こども園「国立富士見台団地 風の子」
関連団体	㈱農天気 リトルホースとふれあう会 リング・リンクくにたち 森のようちえん 全国ネットワーク 学生団体「たまこまち」 NPO法人 Green conection Tokyo NPO法人 国立市観光まちづくり協会
定款	定款 (PDF) 

沿革

2012年	国立市「農業・農地を活かしたまちづくり」事業協議会にて市民が運営する新しい農園モデルを検討 任意団体「くにたち市民協働型農園の会」を設立
2013年	コミュニティ農園「くにたち はたけんぼ」開園 農家・国立市・当会の三者による協定にて生産緑地での市民農園としてスタート
2014年	「はたけんぼ」を現在地に移転 「畑を居場所に」をテーマに、田畑とつながる子育て支援事業を開始。農園での「森のようちえん」や「放課後の子ども達の居場所(学童クラブ)」、 リトルホースとのふれあい事業「くにたち馬飼舎」、親子が楽しめるさまざまな農園イベントを実施。
2016年	NPO法人化 特定非営利活動法人「くにたち農園の会」となる
2017年	甲州街道沿いの古民家(シェアスペース「やぼろじ」)にて、田畑とつながる子育て古民家「つちのこや」開設 (公社)程ヶ谷基金「平成29年度 男女共同参画・少子化関連顕彰事業 活動賞」受賞。
2018年	国立市地域子育て支援拠点事業を受託「つちのこひろば」を開始
2019年	空きアパートを学生団体「たまこまち」とリフォーム 民泊新法によるゲストハウス「ここたまや」開設 都市農地の賃借法により生産緑地を借り受け「田んぼ」が拡大
2020年	団地の幼児教室として50年以上続いてきた幼稚園類似施設「風の子」を引き継ぎ 認定こども園「国立富士見台団地 風の子」開設 畑つきシェアスペース「畑の家」開設 多摩信用金庫「多摩ブルーグリーン賞 たまみらい賞」受賞

8 受賞、助成歴

受賞歴

2022年	きん圏央道アライアンス、圏央道の宝物グランプリ 2022-2023準グランプリ
2021年	農林水産省関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」優良事例認定
2020年	多摩信用金庫「多摩ブルーグリーン賞たまみらい賞」受賞
2017年	(公社)程ヶ谷基金「平成29年度 男女共同参画・少子化関連顕彰事業活動賞」受賞。

主な助成・交付金実績一覧

- 農林水産省「農ある暮らしづくり交付金・農泊推進事業交付金」
- 一般社団法人セブンイレブン記念財団「環境市民活動助成(NPO 基盤強化助成)」
- 一般社団法人ハウジングアンドコミュニティ財団「住まいとコミュニティづくり活動助成」
- 第一生命財団「待機児童対策・保育所等助成事業」
- 日本財団「2021年度助成」
- 東京都産業労働局「保育園等による木育活動の支援事業～保育園・幼稚園等で木育を進めよう!～」
- 国立青少年教育振興機構「子ども夢基金」
- 公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」
- 独立行政法人福祉医療機構「WAM助成」

くにたち農園の会へのお問い合わせ

新しく農園を開設したいという方、畑
や農業とコラボレーションして、何か
発信したいという団体など、まずは
フォームよりご連絡ください。



<https://k-nouennokai.org/contact/>